

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立高西中学校	校長氏名	井上 一男	生徒指導主事氏名	金子 浩之
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『学校行事の改革』

取組のねらい『キーワード 覇権の奪還』

これまで本校の縦割りの体育大会や鶴羽ヶ丘祭（文化祭）のような学校行事は、生徒の主体性を育むという理由のもとに、主導権が生徒に偏っていた。このことは学校生活全般にも言えることで、教師の指導が通らない場面が多くあるように感じた。そこで行事をいったん教師主導の運営に切り替えるとともに、生徒の主体性を育む取組を工夫することで、徐々に主体性を鍛えることをねらいとした。

取組の具体的内容『キーワード ひたむきさ』

3 年前、鶴羽ヶ丘祭への生徒の関心の多くは、学校や生徒会が企画する内容ではなく、有志で参加する歌や出し物が中心で、偏った内容を目的とする一部の生徒主導の文化祭であったが、生徒の正しい主体性を育てるために主導権を教師側に取り戻し、教師主導の鶴羽ヶ丘祭に変えてきた。

大学の応援団を迎え、自分のことは後に回し、声をからし、汗を流し、顔をゆがめながら、ただひたむきに人のために応援する姿から真のかっこよさや美しさを感じ取らせたいと考え企画した。



平成 25 年度 関西大学応援団



平成 26 年度 同志社大学応援団

平成 27 年度 吉中太鼓
(尾道市立吉和中学校 3 年生のみなさん)

取組の課題・創意工夫『キーワード 自己の解放』

初年度から応援団のみなさんのひたむきに応援する姿から学ぶことは大きかったが、応援パフォーマンスに参加して自分を解放できる生徒は少なく、クラス対抗の合唱コンクールでもピアノばかり目立ち、声を出し切れない生徒やクラスも多くあった。しかし二年目から自己を解放し大きな声で応援パフォーマンスに参加したり、合唱コンクールでも声を出せないクラスはなくなりはじめた。

三年目は、尾道市立吉和中学校の3年生を迎えた。これまでの大学生から学んだひたむきな姿から、市内の同じ中学生に切り替え、一糸乱れず和太鼓に打ち込む同年代の中学生が魅せる演奏の姿からひたむきさを感じ取らせるようにした。またクラス合唱や学年合唱だけでなく、377名による全校合唱に取り組んだ。



平成 27 年度 全校合唱 「大地讃頌」・「ふるさと」

取組の成果（効果）『キーワード つながる』

應援団やチアリーディングの大学生の姿から本物のひたむきさを学ぶことからスタートした取組であったが、三年目には同じ中学生の姿から学ぶ場を設定した。本気の和太鼓演奏から受けとめたものは多く、応援のエール交換をした本校生徒の姿からは、「自分たちも...。」という気持ちを強く感じ、エールを返してくださった吉和中学校の生徒のみなさんをグラウンドで見送りながら互いに手を振り合う中学生同士の姿から「つながり」と次への意欲を感じ取ることが出来た。

今 後 の 展 開『キーワード 覇権の委譲』

これまで行事の主導権をいったん教師側に取り戻し、本来の主体性を育むよう取組を三年間進めてきたが、現在その3年生の後ろ姿を追いかけてきた2年生生徒会執行部が動き始めた。これからは少しずつ生徒主体の行事運営に戻せるように、いっそう生徒会を中心とした生徒の主体性を鍛えていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 生徒会活動の活性化と生徒の主体性』

ひたむきに他人のために動く人の姿は、生徒の意識を変えることがわかる。本校の取組ではお迎えした本物のひたむきさから学ばせていただいたが、学校の中で人のために活動するという点では、生徒会活動がそうあるべきなのだと考える。